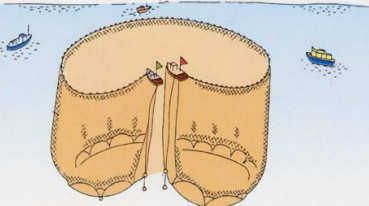


その名は「きんちやくん」！ ～まき網漁業者の新たな販売への挑戦～



高知市丸の内
高知県海洋局
発行人 久保田 寿一
編集人 海洋企画課
定 価 無料



【まき網の操業概要図】
使用する網は長さ600m。絞った網の形が似ていることから「巾着網」とも言う。「きんちやくん」の由来ともなった。

■まき網漁業とは
宿毛湾のまき網漁業は、正式には「火光利用イワシ、アジ、サバ中型まき網漁業」と呼ばれ、夜間、水中に入れた灯火に集まってくるイワシ、アジ、サバ、キビナゴなどの魚群を巻き獲る漁法で、灯船(2〜3隻)、網船、運搬船(1〜2隻)で構成する船団で操業します。

高知県の海と言えば、荒波洗う太平洋というイメージが強いですが、本県西端にある宿毛湾は瀬戸内海の出口豊後水道域に面し、地形や海流の複雑さなどから、生物の生産性が高く、古くから良好な漁場として、様々な漁業が発達してきました。
その中でも「まき網漁業」は、魚類養殖業と並んでこの地域の基幹漁業となつていますが、魚価の低迷などで厳しい経営を強いられてきました。
今回は、閉塞状況を打開しようと、漁業者自らが販売事業に挑戦しているすくも湾まき網共同販売組合「きんちやくん」についてご紹介します。



■鮮度向上が発端
事の始めは、鮮度向上に関する県の普及指導員のアドバイスからでした。
通常まき網船は、漁獲した魚を海水と氷を満たした魚槽に入れませんが、氷の継ぎ足し方や魚の入れ方は漁船毎に異なり、その結果として鮮度にも大きな差が出てきます。当時ほとんどの船が水での冷却を行っていた中、魚槽内の水温を低く保つ

■販売事業への挑戦
同装置の導入で鮮度が向上したうえ、魚価も一定上昇したことが漁業者の意欲・自信に繋がりました。品質の良い自慢の魚を自ら売っていくという流れができ、平成17年に共同出



■大きな可能性
すくも湾漁協は、新設したすくも湾中央市場の順調な滑り出しに併せ、きんちやくんの事業を一層拡大したい意向。漁業者が本県の水産物流通を大きく変革していく可能性に期待しています。

ことが出来る海水冷却装置を搭載していた船が1隻ありました。この両者を比較すると、同装置を使用した船の方が冷却にかかるランニングコストが数百万円低いうえ、漁獲物の価格も高いことが分かりました。
当初、この内容を示し、同装置の導入を提案した際には、初期コストが高いことからすぐに導入の話は進みませんでした。が、操業に同行してデータを取るとともに、「コミュニケーション」を通じて様々な助言を重ねて信頼を得ることにより、5名の漁業者が取り組みをスタートさせることとなりました。



県1漁協を推進しましょう

- 購買は漁協を利用しましょう
- 預金、公共料金は信漁連へ

【編集後記】
まき網漁船に同乗した時のまきこと。真夜中に出船し、漁場前で魚が集まるのを待つつ、手が空いた漁業者と共に仮眠を取ること。常人ならまず眠れない環境の中、自分は5分後には高いびき。愛しい娘が泣いてさえも全く起きない。図太さです(;>.<)

「行政の役割」
公経済に依存する本県では、必然的に行政の役割 責任も大きい。自立的な産業育成という意味ではその是非に議論はあるが、今なお水産振興においても県行政、特に現場で直に漁業者に接する普及指導員の重要性、必要性は漁業者から一定の評価があることから自ら負してもいいのではないかと。ただし、コーディネイト役としての情報収集、分析、企画力の求められるレベルは年々上がっている。漁業者、県民の負託に応えられる続ける存在であるべきだ。

漁業経営のことなら、今すぐお電話を！

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！

- 漁業経営指導協会 tel 088-825-3980
- 上原アドバイザー tel 090-1570-4904